

介護保険制度における終末期がん患者の家族介護者支援の現状と課題

介護支援専門員へのインタビューを通して

○ 山口県立大学 後藤 みゆき (6210)

キーワード：終末期がん患者、家族介護者、ケアマネジメント

1. 研究目的

終末期がん患者の在宅ケアには、患者だけでなく家族介護者に対する支援が必要である。特にがん終末期では、家族介護者は患者の病状悪化や看取りの問題を抱える為、彼らの心身的介護負担は大きいと言える。

このような家族介護者の介護負担を軽減するものとして期待されるのが、介護保険制度である。そこで本研究では、介護支援専門員へのインタビューを通して、介護保険制度における家族介護者支援の現状と課題を探る。

2. 研究の視点および方法

介護支援専門員は、利用者だけでなく家族のニーズをも把握した上でケアマネジメントを行うことが求められる。したがって、終末期がん患者の在宅ケアにおいて、患者だけでなく家族介護者の心身的介護負担に着目したアセスメントやケアマネジメントが行われているかについて、介護支援専門員による支援の現状と課題を明らかにする。

2013年3月～4月、終末期がん患者を担当した経験を持つ介護支援専門員10名に対して、半構成的インタビューを行った。インタビューの内容は、これまで経験したエピソードを通し、家族介護者の健康問題や介護負担、患者との死別等に関する支援の状況に加え、家族介護力評価の視点、ケアマネジメントの留意点などである。

3. 倫理的配慮

調査対象者には、本研究の趣旨を説明した上で同意が得られた場合のみインタビューを行った。データは研究以外には使用せず、個人や所属施設が特定されないようにデータ処理を行った。本研究は、山口県立大学生命倫理委員会の承認を受けて実施した。

4. 研究結果

介護支援専門員は、がん患者の在宅ケアは主家族介護者が一人で患者の介護を行う場合が多く、特定の家族メンバーに負担がかかっていることを捉えていた。介護負担では食事と排泄の世話が大きく、夜間不眠の問題もあるが、患者の余命が僅かであることから、家族介護者は疲労を自覚しても気力を振り絞って介護を継続し、体の辛さを訴えることもほとんどないことが語られた。このような状況に対して介護支援専門員は、介護期間が長期

に渡ると家族介護者の健康問題が生じる可能性が高いと考えており、その場合の支援として患者にショート・ステイを薦めることが語られた。しかしながら、状態が厳しいがん患者を受け入れる施設はほとんどないこと、終末期にショート・ステイを利用するのは患者の QOL を低下させるとの理由から、実際は家族が無理をして介護を継続している状況が窺えた。

介護支援専門員は、患者の看取り後においても家族介護者の健康問題は無いと語った。彼らがこのような認識を持つのは、患者の死後では遺族と関わる機会がないため、健康問題の有無を確認していないことが大きく影響していた。

心理的負担では、看護師が毎日訪問するため、家族介護者はそれほど不安な状態ではない、不安を訴えられることはないと捉えていた。終末期がんの場合において、家族介護者は患者との死別をめぐる問題を抱えることが多い。しかし、この点についても家族介護者が患者との死別を受け入れられないことはない、それよりも患者の最期を看るという気持ちが強いと考える傾向にあった。また、グリーフケアについては、患者が死亡した後の遺族のフォローは難しいとし、その理由には介護保険が切れた時点で遺族との縁も切れることが語られた。

家族介護力では、介護意志の有無と実際にどの程度介護できるかが主な評価の視点であった。具体的には、家族介護者が患者の疾患を理解できるか、医師や看護師の指示を理解・実施できるかということであった。家族が中心となって患者の介護を行い、不足する部分をサービスで埋めることが在宅ケアの基本であり、その際のサービス調整を行うのが介護支援専門員の役割と認識していた。

ケアマネジメントの留意点では、利用者本人（患者）の在宅ケアの希望を最も優先すると考える者が多かった。がん患者の在宅ケア実施において、家族介護者の存在は非常に重要であるが、家族の希望や都合は二次的なものとされる傾向があった。

5. 考察

終末期がん患者の在宅ケアには、患者の症状への対応や身体的介護、死別をめぐる問題があり、家族介護者がこれらの負担を引き受けることは周知の事実である。しかしながら、本調査では、直接的な訴えがないという理由で、介護支援専門員は家族介護者には心身の介護負担の問題がないと判断する傾向にあった。本来のケアマネジメントは、対象者のニーズを的確に見出した上で行うことから考えると、本調査のケアマネジメントは十分なものとは言えない状況であった。

グリーフケアが行われないこと、ケアマネジメントにおいて家族介護者があまり重要視されないことの要因は、介護保険制度では主たる支援対象はあくまでも利用者本人であり、家族介護者は副次的な支援対象であることが影響していると考えられた。